

令和4年度和歌山県文化賞

たけうち かずひこ
武内 和彦

住 所 東京都北区
出身地 和歌山県和歌山市
生 年 昭和26年

◎ 業績及び経歴

昭和26年和歌山市に生まれる。昭和49年東京大学理学部地理学科を卒業。昭和51年同大学院農学系研究科修士課程を修了した後、農学博士となる。

東京都立大学理学部助手、東京大学農学部助教授、同アジア生物資源環境研究センター教授を経て、同大学院農学生命科学研究科教授。同大学サステイナビリティ学連携研究機構長、国連大学上級副学長、中央環境審議会会長、日本学術会議副会長等を歴任。

緑地環境学、地域生態学、サステイナビリティ学を専門として、人と自然が共生する社会の実現に尽力。フィールド調査と環境情報システムを組み合わせた客観的で定量的な環境保全機能の評価に基づく地域環境管理計画手法を開発。各地の地域環境管理の取組を先導し地域生態学の分野を確立した。

また、里地・里山における景観構造や生物多様性の維持機構を解明。人の手が入る二次的な自然の保全再生や伝統的土地利用の再構築に向け、世界各地との連携を目指すSATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップの設立運営に多大な貢献を果たした。

さらに、これらの研究成果を持続的な社会-生態システムの再構築を目指すサステイナビリティ学へと展開。多くの著書や氏が編集委員長を務める国際学術誌を通じて国内外に広く発信し、社会実装に繋げてきた。「みなべ・田辺の梅システム」の世界農業遺産認定、農林水産省による日本農業遺産認定活動の開始、第五次環境基本計画における地域循環共生圏の創造等は、まさに氏が一貫して提唱してきた持続可能な地域環境づくりを具現化した例といえる。

サステイナビリティの観点から、人と自然が共生する社会の実現に向け、伝統的な知識と近代的な科学技術を融合させるといふ氏の研究実践内容は、今後、日本のみならず世界が進むべき方向性を鮮やかに指し示すものであり、氏の優れた先見性と高度な学際性は、世界に向けた本県の誇りである。

■ 現 在

- ・公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長
- ・東京大学未来ビジョン研究センター特任教授
- ・東京大学名誉教授
- ・国連大学サステイナビリティ高等研究所客員教授

◆ 主な表彰歴等

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 昭和56年 | 日本造園学会賞 |
| 平成7年 | 農村計画学会賞 |
| 平成7年 | 日本都市計画学会石川賞 |
| 平成20年 | 環境大臣表彰（環境保全功労者） |
| 平成29年 | 日本農学賞・読売農学賞 |
| 平成30年 | Otto Soemarwoto Award（インドネシア） |
| 平成30年 | 和歌山県知事表彰（産業の振興農林業） |
| 平成31年 | 市村賞地球環境学術賞貢献賞 |
| 令和3年 | みどりの学術賞（内閣総理大臣賞） |
| 令和4年 | 日本造園学会上原啓二賞 |